要請番号（JL02422B14）

募集終了

国名	職種コード 職種	年齢制限	活動形態	区分	派遣期間	派遣隊次
ラオス	C402 養殖	20～45歳のみ	個別	交替2代目	2年	・2023/2・2023/3・2023/4 ・2024/1

【配属機関概要】

1）受入省庁名（日本語）

農林省

2）配属機関名（日本語）

北部農林短期大学

3）任地（ ルアンパバーン県パクスアン郡 ） JICA事務所の所在地（ 首都ビエンチャン ）

任地からJICA事務所までの交通手段、所要時間（ 飛行機+ﾊﾞｽで 約 1.5 時間 ）

4）配属機関の規模・事業内容

農林省傘下の5つの短期大学のうちの一つで1989年に設立された。高地・山岳地帯農業を専門とするラオス唯一の短期大学である。学生数は2022年7月現在156人で、3年間の通常コースと、2年間の社会人向けコースがあり、作物栽培学、畜産・養殖学、農業経営学、林学等を教えている。ラオス北部の貧困の削減、食料の安定供給、生計向上に貢献することを目標としている。1990年代から2000年ごろにかけて協力隊派遣実績があり、2018年6月まで土壌・肥料隊員が派遣されていた。外国からの援助としてはスイスより学費支援や教室、教材整備の支援が行われた実績がある。予算は約1,700万円(職員給与含む)。

【要請概要】

1）要請理由・背景

ラオスは国民の約7割が農林水産業に従事しており、村落部ではその割合は更に高い。多くは資材不足による貧困農家で、村落住民の基礎教育の立ち遅れも影響して、農産物の生産性と品質が低いため、村落住民の生計向上が課題となっている。これに対処するため農林短期大学では農林省が進める村落住民生計向上対策の一つとして畜産養殖科で学ぶ学生を普及員として育成し、卒業後に出身の山間部地方にて養殖農家へ技術指導できる人材育成を目指している。2012年に校舎が増築され、養殖実習場に太陽光発電小型ポンプを増設するなどして、実習授業の改善を進めるなかで、JICA海外協力隊による支援が求められている。前任隊員は新型コロナ感染拡大の影響で一時帰国となり、実質的な活動はなされなかった。

2）予定されている活動内容（以下を踏まえ、隊員の経験をもとに関係者と協議して計画を立て、柔軟に内容を変更しながら活動を進めます）

配属先関係者と協力して、以下の活動を行う。
1.畜産養殖科が実施する実技講習を補助し、人工採卵と種苗生産技術の改善点を助言する。
2.成熟ホルモン等の化学的役割を分かりやすく学生に理解させるための教材作り等、実習授業の補助を担当する。
3.中間育成後の生け簀や養殖池での管理方法と種別の生態についての授業を補助する。

3）隊員が使用する機材の機種名・型式、設備等

養殖実習場(4.5ヘクタール)、水質検査キット(HANNA- pH,NO2, NO3, NH4)成熟ホルモン剤、水温計、ソーラーパワーポンプ

4）配属先同僚及び活動対象者

配属先同僚:
副校長 50代男性、博士号取得者

同僚 30代男性 5年の教員経験
30代女性 2年の教員経験

活動対象者: 教員、学生、周辺農家

5）活動使用言語	6）生活使用言語	7）選考指定言語
ラオ語	ラオ語	英語(レベル:C)

【資格条件等】

[免許]：（　　）

[性別]：（　　）　備考：

[学歴]：（大卒）農学系　備考：学生への指導のため

[経験]：（実務経験）2年以上　備考：経験に基づく指導が求められるため

任地での乗物利用の必要性

不要

【地域概況】

[気候]：（熱帯モンスーン気候）　気温：（10～35℃位）

[通信]：（インターネット可　電話可）

[電気]：（安定）

[水道]：（安定）

【特記事項】

都市部に比べて不便な村落部に住み活動することになるため、市域住民との友好関係を築きながら環境に順応して生活することが求められる。ホームステイの可能性もあり。

COPYRIGHT(C)1995-2015 JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY. ALL RIGHTS RESERVED.